

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600228		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム いたどり (ユニット1)		
所在地	白老郡白老町字竹浦135番地7		
自己評価作成日	平成25年3月3日	評価結果市町村受理日	平成25年4月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193600228-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193600228-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成25年3月21日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は支援者である前にひとりの人として出逢うことを大切に、入居者様、ご家族様、職員個々のパーソナリティを尊重すると共に、それぞれの自己実現や自分が求める生き方を主体的に追求できるよう、認知症を有することによって抱える生きづらさに対し、個々を認め合うことや、一人一人が社会の中で力をもち、活かし生きること目標に支援を提供し、それぞれの生活の実現に向けて取り組んでいる。タイムスケジュールはなく、ご本人の選択が状況にあわせて可能となるよう支援を行い、個々のペースで生活できるよう努めている。また、入居者様、ご家族様の思いに対し、日々の支援や行事などできる方法を探り考え、実現できるように取り組んでいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は温泉と海と山の自然に恵まれた地にあり開設から2年が経過した。隣に本社のリハビリテーションセンターがある。来訪者の手指消毒を励行し、ノロウイルス対策で吐瀉物を処理するためのキットを準備している。職員がよくできたこと、好いと思ったことを報告してもらい共有する「にやり・ハット」制度を設けてサービス向上に活かしている。地域住民が来訪して歌等を披露したり、家族や付近住民からの特産品差し入れも多い。畑で採れたジャガイモやズッキーニが食卓に上り、全職員が当番で調理して、ホットケーキなどのおやつも手作りで提供している。海岸に近く津波来襲が想定される時間内に近隣4階建てビルまで避難する訓練を行い、緊急時に防災スピーカーで近隣住民に利用者避難の援助を呼びかけるシステムがある。利用者はできる範囲で、ごみ捨て・床拭き・調理の下準備などを行なっている。ごみ捨ては外出の機会でもある。利用者は畑仕事・編み物・塗り絵など各自の役割や楽しみごとをしながら、家族・地域・職員に見守られて自分のペースで暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の作成と共に、玄関や事務室内の見える部分に掲示している。研修等の振り返りの際などには確認を行っている。	法人理念に加え「求める生き方を自分のペースで力を発揮しながら、仲間や地域住民とともに実現することを支える」の事業所理念を職員で話し合っって作成し、壁に貼って、心のバリアフリーを目指して確認しあっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、会合などに出席したり、運営推進会議の中で地域代表の方達に協力を頂いて、各種町内会イベントに参加している。また、もちつき等の事業所でのイベントの際には地域の方達にも参加を依頼して来て頂いている。	地域の夏祭りに参加し、神社の祭礼で子供御輿が玄関前を練り歩く。餅つきなど事業所行事に参加を募り、差し入れなどで日常的な来訪もある。通信で「お茶のみ友達」を募集、数名が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度、いたどり内の生活の様子を情報誌に記載して町内会に回覧している。写真を多く掲載して、利用者の生活の様子がわかるように作成すると共に、町内会へ遊びに来て欲しい旨なども記載している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、活動状況や今後の取り組み予定を報告すると共に、その中身について意見を頂く様になっている。会議で話し合われた内容については議事録を残し職員全員が回覧できると共に、ミーティングで伝達するようにしている。	年6回、利用者・家族・住民・民生委員・保護司・地域包括支援センターが参加して開催している。各種報告のほか、防災対策や「ひやりはつと」事例に関して質問・意見・助言をもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	検討事項や状況に応じては市町村担当者に連絡・確認を取っている。また、地域包括支援センターの職員にも運営推進会議を通じて行事に参加して頂き、生活の様子を見て頂いている。	事故報告や要介護度変更の提出代行などで町に出かけている。人員配置や神聖に関する相談もしている。町から、老健の帰宅欲求入居者への対処方法に関して相談を受けることもある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内や職員ミーティングでの研修を通じて理解に努めている。また、管理者より日頃の関わりの中での言葉かけの仕方や服薬等の見直し等についても確認や助言を受けている。玄関については施錠は防犯上で夜間のみ実施するが、夜間でも外出の希望があれば行動制限しないように見守りながら対応をしている。	新人研修のほか、朝夕のミーティで言葉による拘束も含めて身体拘束をしないケアを確認、職員全員で共有している。そっで見守りなどの行動を抑制しないケアを心がけている。防犯上夜間だけ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修を行い虐待防止に努めている。また、管理者より過去の虐待のケースやニュースなどは記事などを回覧し、その後に意見を聞いたり等をして、職員に対しての情報共有を行うよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で研修を行い職員間で理解に努めているが、全職員が制度の中身の詳細把握については至っていない。制度の活用については、管理者を通じて、必要性のあるケースによっては、ご家族に制度の説明と利用についての相談を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前訪問を行い、生活環境の確認やグループホームでの生活の不安や希望を伺ったりしている。利用にあたる契約内容については入居時に時間をかけて文章と共に説明を行い、理解して頂ける様に支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、利用者・家族代表を含めて意見を頂いたりしている。また、日頃の関わりにて利用者から要望などがあつた際には随時対応しているが、ご家族からの意見・要望に関しては積極的に情報収集を行っていない部分がある。	家族の来訪時になるべく時間をとって会話を交わし、意見を引き出す取り組みをしている。月ごとに利用者の生活・状況について詳しい報告を書面にて行うことを考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行われているミーティング時や、不定期での職員会議などで意見を集約する機会を作り、検討事項においては事業所のみならず、法人の経営者会議などでも意見の検討と反映を試みている。	会議のほかでも職員は提案や意見を言いやすい雰囲気がある。たとえばテレビを見ていた利用者の一言を聞いた職員の提案から、夏祭りで流しソーメンを行い好評を得た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、勤務の希望などを取り入れつつ勤務や休日に反映させている。また、各自のスキルアップのために資格獲得に関する相談や助言なども行っている。行事の企画に関しては職員の実績や希望などを聞き入れつつ、担当者が中心となって意欲を持ってサポートできるように支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外に問わずに研修の案内を職員間で回覧し、研修参加希望者には勤務調整を行い参加の機会を促している。また、事業所の年間計画において、職員のスキルアップのために力量に見合った研修参加への調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他部署との合同の研修会などの実施や、各種外部研修にて交流の機会がある。ネットワーク作りなどに関しては、これからの課題として調整していく必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に事前訪問を行い、暮らしの様子や希望・不安などの聞き取りを行う事で、予めサービス利用の前に安心して入居して頂ける様に支援を行っている。また、入居後に不安等を感じる際には時間をかけて話を傾聴し、どのように解決していけば良いのかをご本人と共に考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に、事前訪問をさせて頂いたり、グループホームへの見学をして頂きながら、希望や不安を聞くようにしている。入居にあたっての準備の相談なども行い、利用者に合わせた環境調整の助言などを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの希望や不安を傾聴し、その中で言葉以外の部分でのニーズがないか等の検討を行っている。利用者や家族の思いのずれ違い等もあるので、状況によっては他のサービスの活用も視野に入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が得意とされる生活活動を中心に参加して頂きながら、ご本人「したい」と思える活動に参加して頂けるように言葉かけ等による動機づけの支援を行っているが、活動提供の回数や種類については少ない状況である。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所としては情報誌の発行にて家族との行事などの情報提供を行ったり、有事の際の家族への連絡・相談を行っているが、普段の面会時におけるケアスタッフからの家族へのコミュニケーション等においては足りない部分がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時の友人などへの電話の支援や、面会時の外出など支援をしている。また、希望によって馴染みの理美容室への利用や、地域の食堂での外食なども実施している。	通信「あそしえ」で募集した「茶飲み友達」数名が定期的に来訪し、利用者と歓談し馴染みになりつつある。行きつけの利美容に通う利用者を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の関係性などを考慮して支援を行う。その中で相互理解ができる様に活動などを通じてコミュニケーションの機会を図ったり、誕生日などに利用者の方々が皆で飾りつけ等を行い互いに協力できる場面を意図的に作るように努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後においても、写真や情報誌の送付を行ったり、参加を楽しみにされていた行事への参加の案内を送ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や要望に対しては、意向に沿うように支援を行っているが、希望や要望が少ない利用者に対しては意向の確認や本人本位の視点に関して情報の集約が足りない部分もある。	職員は、利用者の思いを大切に、つづやき、会話から出てきた希望を見逃さず、実現に努めている。流しゾーンの実施はその一例である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に自宅訪問を行い、暮らしてきた環境や習慣を伺いながらサービスの利用に反映できるようにしている。使用していた家具や生活用品の持参をして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービスの利用を行い、慣れてきている個々の生活の仕方や出来ている活動提供は比較的支援を行っているが、新しく出来る活動や生活のあり方については可能性の把握に足りない部分がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や要望については時間をかけて会話などで伺いながら取り入れて計画の作成を行っているが、家族や関係者との話し合いについては十分に時間を取れていない状況がある。	介護担当職員が中心となり、利用者・家族の意見・希望を聞いて、定期的なモニタリングとアセスメントを行い、職員の気づきや意見を取り入れながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の把握については1日に2回のミーティングを行い時間をかけて把握に努めており、関わりの内容や今後の課題などについてはその都度検討を行っている。しかし、その内容等については個別記録へ十分に生かされていない状況がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて随時検討を行い実施している。精神的なケアが必要に対して、入院時の外出支援を行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りや文化祭などのイベントに参加したり、以前に食事や宿泊に行った事のある場所での食事会など、地元での外出の機会を得て楽しむ生活となる様に意識して実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時より、本人とご家族と受診先について希望を伺い、受診時の介助・かかりつけ医への情報提供などの支援を実施している。また、状況に応じては専門医の紹介や、かかりつけ医の変更なども検討・実施している。	受診について本人・家族の意向を尊重して、かかりつけ医への受診についても原則的に職員が同行している。新たな受診科やかかりつけ医の変更の相談にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、看護師が体調確認を行っており、その際に生活の様子や体調の変化などを報告している。状況に応じては健康確認のための指示を看護師より受けたり、かかりつけ医に相談を行っての受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会などを随時行ってご本人の状況を確認させて頂くと共に、医師よりの説明などの際には可能な限り参加を行い、状況の把握や退院後のケアの検討を行い早期退院に向けて支援を行っている。また、連絡を密にして必要に応じては訪問して食事など実際のケアについて支援も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービスの利用開始時に契約と共に文章を用いた説明を実施している。また、状況によって利用者や家族に意向を伺いながら外部機関や病院と連絡を取って安心して生活を送ることができるよう調整を行っている。	対応と介護の指針を作成し、契約時に説明している。法人母体医師・看護師と連携を取りながら終末期に対応する体制がある。本年度、家族と職員が連携を取りながら終末期を介護した事実上の看取りを経験した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を職員全員が受講し、受講後に対してもAEDの使用の確認や、緊急時の姿勢の確保・対応等についても確認する機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施に伴い、町内会の方にも参加をして頂いて避難の状況を確認して頂いている。また、白老町に協力を得て防災無線の使用の許可を得ると共に、町内会に使用に関して協力の依頼を情報誌を通じて行っている。	消防署と地域住民が参加して年2回、うち1回は夜間を想定して避難訓練を実施している。津波対応は、付近の4階建て施設へ避難する予定で、その訓練も実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の活躍の際には、周囲の方の関心を得て喜んで頂ける様に言葉かけを行ったり、排泄の支援などプライバシーなどの配慮が必要な際には周囲の状況を確認の上で言葉かけを行うようにしている。	できるだけ楽しんでもらえるよう肯定的な言葉遣いに努め、排泄誘導時や失禁時など誇りを傷つけないように特に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に助言を行い、仕方なく受け入れたりする事で精神的な負担感が增大するので、ご本人に「～したい」「そうしてみる」と自己決定ができる様に動機づけの支援を行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や起床・就寝時間など、生活の中での日課を作らずに、その時にしたいと思えた時に実施できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室へは希望によってや、時期をみて支援を行っている。その際には毛染めやパーマ等の調整や、普段の衣服の購入の支援なども好みによって実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に入った食材や、皆で採取した野菜などを急遽メニューに取り入れたり、皆でホットプレートなどで焼いてその場で調理したり、天気の良い日に外で弁当を持参して食事をしたり、楽しみを持って工夫している。	畑で採れた野菜や差入れの魚介類が食卓に上り、旬の食材を話題にして職員と共に食事を楽しんでいる。下準備や後片付けを一緒にする。ホテルで会食・回転寿司など外食を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を毎日チェックをすると共に、習慣や希望に応じて嗜好の物の購入・提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には言葉かけの支援などにて自身にて口腔ケアを実施して頂く様に支援を行い、必要に応じて義歯洗浄剤の支援などを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを全員行うと共に、排泄の訴えがない方に関しても時間などを確認しながら負担感がない様にトイレ誘導を行っている。また、おむつ類の使用の際には管理者や家族と共に状況の確認を行い過剰に使用する事がないように検討している。	水分摂取や排泄パターンから適時に声掛けしてトイレでの排泄に誘導している。できるだけ自立排泄ができるように支援して、オムツ使用は必要最小限度に抑えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状況に応じては食事や水分に食物繊維や乳酸菌を得られる様に調理の際に柔らかく煮たり、すりつぶして提供したり、おやつ等の嗜好の物と摂取できるよう工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や日程を決めず、随時入りたい時に入られるように支援を行っている。希望によっては早朝や夜間入浴も実施している。	利用者が入りたいタイミングで入浴できるように準備している。拒否する利用者には無理強いせず、時間を置いて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調を確認しながら休息や就寝をして頂き、時間に捉われないケアを目指している。日中になるべく起きて頂いて夜間に安眠できる様に意識して取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況の薬剤一覧表を確認できる所にて綴っており、薬剤の変更等があった際には薬の効能や副作用について申し送りを行い、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活で行ってきた事や、ご本人からやりたいと希望があった事には積極的に参加して頂いている。新しく楽しみとして出来る活動については共に考えてより多くの事を見つけていく必要があるため、取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人が外に行きたいと思えるときに、散歩や買い物・畑などに出かけられるように職員は工夫して支援を行っている。また、利用者から希望があった際には果物狩りなど、車両使用にて遠くへの外出支援を行っている。	散歩や買い物・畑仕事など日常の外出のほか、車に分乗して公園へピクニック、果樹園でぶどう狩りをしてジンギスカン、弁当を持参して花見や紅葉狩りなど季節ごとに普段は行けないところへ出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で持ちたいという思いがある方には持参して頂いている。また、自己管理が困難な方については買い物に参加して頂いた際に、職員の支援で値段などを確認しながら購入できる様に支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家族の負担にならないように電話の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共有スペースの温度や湿度調整を行っている。また、歌が好きな方の歌声やテレビの音量など、周囲の状況に応じては環境のコーディネートを行う様にしている。また、リビングや玄関・廊下などに季節に応じた飾りなどを行い、季節感や和みを得られる様に配慮を行っている。	共有スペースは広く、車椅子の通行もスムーズである。温度・テレビ前だけではなく、窓際などにもソファが置かれて、利用者が好きな場所で寛ぐことができる。雛飾りなど季節に応じた飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのみならず、リビング横の小スペースや、廊下の角・トイレ前のスペース等にソファの設置を行い、自室以外にもゆっくりと一人で過ごせる場所を提供し、使用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前訪問などにて、馴染みの物を確認させて頂いたり、ご本人の状況に応じて部屋の環境を考慮しながら持参するものや購入するものについて相談している。ご本人の部屋を生活空間として捉えるように絨織や家具の設置なども検討している。	仏壇や家具などを持ち込み、利用者、家族の意向にそった居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはプレートを自作し掲示して、ご本人ができる範囲で移動や行動決定をして頂き見守り支援を行っている。		